

全国の飼育係と

京都大学が語る

動物園のうらばなし



NOICHI ZOO

動物園大学⑤ in 高知

高知県立のいち動物公園

ず〜ぜよ。



Let's go to Noichi

同時開催イベント
ジオアートワークス
WILDLIFE ART 展



動物園大学とは
京都大学および連携する動物園が協力して、
情報交換・共同開発・教育普及
をおこなうプロジェクトです。



巻頭言

京都大学野生動物研究センターは、野生動物、特にその多くが絶滅に瀕している大型動物に関する教育研究を行っています。現在、15名の教員と40名以上の大学院生や若手研究者が、世界各地のフィールドや国内外の動物園・水族館で様々な野生動物を研究しています。また、野生動物保全のために、アマゾンなどの自然生息地に、野生動物を飼育、半飼育、野生下で観察・研究・保全できる、理想の動物園・水族館ともいえる施設「フィールドミュージアム」を整備する国際プロジェクトも進めています。本研究センターの大きな特色の一つは、動物園や水族館との連携を重視していることです。野生動物を絶滅から守るには、自然生息地での研究・保全だけでなく、動物園・水族館で飼育されている貴重な野生動物の研究や保全、教育への利用を推進する事が重要だからです。我々は、日本の動物園・水族館は、将来、地域の自然や生物を「知り」、「楽しみ」、「守る」ための重要な拠点になるだろうと考えています。このような考えから、本センターは設立当初から、国内外の研究機関との共同研究、野生生息地での野外調査、ゲノム研究の基盤整備に加えて、地域動物園・水族館との連携を推進してきました。2008年のセンター設立当初には3園館だった連携動物園・水族館も、現在では14園館にまで増え、連携の輪は着実に広がりつつあります。また、文科省共同利用・共同研究拠点「絶滅の危機に瀕する野生動物（大型哺乳類等）の保全に関する研究拠点」として、全国の研究者や動物園・水族館職員と、野生動物保全に関する公募共同研究を実施しています。今回で第5回目を迎えるシンポジウム「動物園大学」は、連携動物園との共同企画によるもので、日ごろの連携の成果を広く一般の方々に知っていただくことを目的としています。本シンポジウムでは、動物園・水族館職員、研究者、NPOによる共同研究の成果や、ユニークな活動の紹介の他、数々の楽しい企画が予定されています。このシンポジウムによって、動物園・水族館職員と大学などの研究者、動物に関心を持つ多くの人々との交流と連携がさらに深まることを願っています。



2015 年 3 月 15 日
京都大学野生動物研究センター
センター長 幸島司郎

共同利用・共同研究

絶滅の危機に瀕する野生動物（大型哺乳類等）の保全に関する研究拠点

京都大学野生動物研究センターは、野生動物や動物園などの飼育下の動物を主な対象として、基礎研究や保全研究ならびに野生動物や自然環境への理解を深めるための教育活動などを推進しています。このような基礎研究や教育活動をより広範に進めるため、共同利用・共同研究として、当センター以外の方の研究をサポートし、共同研究を行っています。日本で唯一の野生動物保全研究の拠点を構築し、野生動物の保全をよりいっそう社会に根付いたものにしていくことを目指しています。

<http://www.wrc.kyoto-u.ac.jp/>
(公募は毎年1月)



※写真は、2012年度および2013年度探知者のみなさんが対象としている動物や調査の様子です。ご提供くださった方々に感謝いたします。

開催によせて

高知県立のいち動物公園は、広い自然環境のなかで家族の憩いの場として、動物とふれあい伸び伸びと一緒に遊びながら、かつ、動物の生態をも学べるような動物公園として整備されてきました。

私ども公益財団法人高知県のいち動物公園協会は、当動物公園の指定管理者として公園の維持管理運営、動植物に関する調査研究、動物の知識及び愛護思想の普及、及び野生動物の保護等を行い、自然に対する認識を深めることにより、県民福祉の増進に寄与すべく日々努力を重ねてまいりました。

動物の展示については、「人も動物もいきいきと」を基本理念として、広々とした自然豊かな環境で生き生きと活動できるよう工夫をしています。また、国内で唯一のブチハイエナの家族展示など特色ある展示も行っています。昨年はニホンカワウソに一番近い種といわれるユーラシアカワウソも展示仲間に加わりました。さらに、年末にはアミメキリンに待望の赤ちゃんが生まれ、展示場を元気に走り回っており、園内はますます賑やかになりました。

このたび、京都大学及び連携する動物園が協力して情報交換・共同研究・教育普及を行うプロジェクトの5回目となる「ず〜ぜよ。動物園大学⑤in 高知」が当園で開催されることになりました。今回は、「動物園動物の健康と福祉」をテーマに、日本各地の動物園の飼育係がそれぞれの取り組みなどの紹介を行うことになっています。活発な意見交換が行われ、「動物園動物の健康と福祉」に向けた実り多い会議となることを期待します。



2015年3月15日
公益財団法人高知県のいち動物公園協会
理事長 中澤卓史

人と動物をつなぐ

人類がこの地球上に登場して数百万年、長く環境と調和しながら進化を遂げて 10 万年程前に私たちホモ・サピエンスが生まれたのですが、有史以来の文明発生や産業革命を経て人間社会優先の世界に一変してしまいました。すなわち、自然や動物に多大な負荷を掛けながら自分たちの繁栄を謳歌してきたのです。ところが、資源の枯渇や食糧不足、地球温暖化や生物多様性の衰退、希少種の絶滅などを目の当たりにして、私たちはようやく後戻りできないあたりにまで来てしまったことに気が始めたのです。

今日、私たちは動物を単なる物や商品としてではなく、この地球号でいっしょに旅をする仲間として、いわゆる「人と動物の共生」を重視した考え方にシフトしつつあります。このことは野生動物や動物園動物についても然り。今、私たちは、彼らとの接し方、向き合い方について大幅に見直すべき時に来ています。

動物園には、そうした「動物たちとの関係」を考えるためのきっかけやヒントがそこかしこにあります。生きた本物の動物を観察し、彼らを識り、理解し、さらには彼らが歩んできた道程や故郷の環境まで思いを馳せることができます。しかし、そうした立場としての動物園は社会的に充分認知されていない、裏を返せば動物園の情報発信力、啓発力がまだまだ発展途上という反省を抱かざるを得ないのです。

そうした意味でもこの『動物園大学』は、市民と動物園を橋渡しする大変貴重な機会を提供して下さいました。全国各地の動物園の取り組みや動物たちの情報・トピックスなど、みなさんといっしょに識り、学び、考え、意見交換して参りたいと思います。



2015 年 3 月 15 日
高知県立のいち動物公園
園長 多々良成紀



プログラム

午前の部（於：のいち動物公園・どうぶつ科学館）

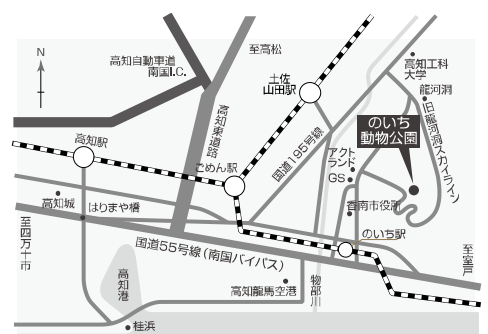
- 9:30 開場・受付（入口ゲート）
- 9:45 開会のあいさつ 中澤卓史（公財 高知県のいち動物公園協会・理事長）
- 10:00 動物園の飼育係によるレクチャー
- ▶ 10:00 がんばれミルキー！脳性麻痺のチンパンジー「ミルキー」の成長記
山田信宏（高知県立のいち動物公園）…………… p. 5
 - ▶ 10:15 高齢動物のケアとみとり
吉澤未来（わんぱーくこうちアニマルランド）…………… p. 5
 - ▶ 10:30 障害のあるマントヒヒの群れへの復帰とその後
熊岡悟史（愛媛県立とべ動物園）…………… p. 5
 - ▶ 10:45 ツキノワグマ サクラの老後ケアとみとり
川口かおる（京都市動物園）…………… p. 5
 - ▶ 11:00 隻腕のチンパンジー、アキコ
近藤裕治（名古屋市東山動植物園）…………… p. 5
- 11:15 演者と会場参加者のフリートークⅠ
- 12:00 （昼食休憩）

午後の部

- 13:00 ポスター発表（終日掲載）…………… p. 17～18
研究者や動物園スタッフが、日ごろの研究活動について、また動物や動物園のあれこれについて、
わかりやすくポスターの前でお話します。ぜひ足を運んでみてください。
- 14:20 動物園の飼育係によるレクチャー
- ▶ 14:20 アフリカゾウ「マリー」と「エリ」の幸せを考えて
松本松男（熊本市動植物園）…………… p. 5
 - ▶ 14:35 フタコブラクダ 「ツガル」の老後ケア
山口進也（公財 横浜市緑の協会 野毛山動物園）…………… p. 5
 - ▶ 14:50 目にケガを負ったワオキツネザルの治療奮闘話～もとの群れへ帰るまで～
中尾汐莉（公財 日本モンキーセンター）…………… p. 5
- 15:05 演者と会場参加者のフリートークⅡ
- 15:50 動物園長のお話
- ▶ 15:50 動物園のこれからの歩み
多々良成紀（高知県立のいち動物公園）…………… p. 6
 - ▶ 16:00 おらんくの動物園
渡部 孝（わんぱーくこうちアニマルランド）…………… p. 6
- 16:10 自由討論－動物も歳を取るし、病気にもなる！－
コーディネーター：伊谷原一（京都大学野生動物研究センター／公財 日本モンキーセンター）…………… p. 6
- 16:45 閉会のあいさつ 伊谷原一（京都大学野生動物研究センター・教授）
- 16:55 閉会

のいち動物公園 アクセスMAP

- ◆高知自動車道 南国ICより車で20分
- ◆高知龍馬空港より車で10分 ※風力発電が目印
- ◆JR土讃線→土佐くろしお鉄道 ごめん・なはり線のいち駅下車、徒歩20分



動物園の飼育係によるレクチャー



山田信宏 高知県立のいち動物公園

平成 8 年に高知県立のいち動物園に採用されて飼育係としての生活をスタートさせた。平成 14 年からチンパンジーの飼育担当となり現在に至る。これまでにシロテナガザルやワオキツネザルなどの人工哺育を経験しミルクィー(チンパンジー)のケースが 5 回目の人工哺育となる。障害があるミルクィーの世話をしながら日々のリハビリに取り組んでいます。

がんばれミルクィー！脳性麻痺のチンパンジー「ミルクィー」の成長記

2013 年 7 月 14 日にミルクィーが誕生しました。母親は難産のため出産できず麻酔をかけて出産の手伝いをしました。赤ちゃんの心臓が動いていなかったため急いで蘇生処置をした結果、命を助けることができました。しかし、その後ミルクィーは生まれもって体に障害があることが分かりました。いまは障害のある子供たちをサポートしている専門家とともにミルクィーのリハビリを行ってひとりで出来ることを増やそうと協力しています。



熊岡悟史 愛媛県立とべ動物園

平成 10 年、愛媛県に獣医師として入庁。家畜保健衛生所を経て、平成 13 年度から愛媛県立とべ動物園に配属、主に動物治療を担当し、アジアスイギュウの人工授精に成功。平成 19 年度から愛媛県農林水産研究所畜産研究センターにて「愛媛甘とろ豚」の開発に携わる。平成 25 年度から動物園に再勤務。現在は、衛生グループの担当係長として、動物病院の総括ならびにゾウ、サイ、キリンなどの大型草食獣やネコ科の動物治療を担当。

障害のあるマントヒヒの群れへの復帰とその後

野生のマントヒヒはリーダー雄と複数の雌と、その子供の家族的な集まりを単位に、これらが複数集まる高度な社会を営む。愛媛県立とべ動物園では、現在 16 頭(♂7♀9)のマントヒヒを飼育し、障害のある個体が 2 頭いる。アンリ(♀)はケンカが原因で片足を失い、治療のため群れからの分離と復帰を繰り返した。イブナ(♀)は生まれつき目が見えないうえに生後 6 カ月齢で骨折、約 1 か月間の分離治療の末、群れへ復帰した。現在、2 頭は群れの一員として他のマントヒヒたちと一緒に生活している。



近藤裕治 名古屋市東山動植物園

愛知県立安城高等学校畜産科卒業後、厩務員並びに乗馬インストラクターとして山梨県清里の観光牧場に勤務する。平成 4 年 4 月に名古屋市役所入庁。業務技師として採用され、東山動物園飼育第一係に配属となる。1 年目は飼料室を担当する。その後、ニホンザル、猛獣舎、こども動物園、コアラ、世界のメダカ館等を経て平成 16 年に類人猿班へ配属となる。大型類人猿の副担当を経験した後、平成 22 年にチンパンジーの正担当となり今に至る。

隻腕のチンパンジー、アキコ

皆さんは動物園で片腕や片足、片羽の動物を見たことがありますか？野生下では時々観察されるようですが、動物園では展示に相応しくないとしてバックヤードで飼育されるのが常識でした。しかし、東山動植物園では群れの中で生活する隻腕のチンパンジーを見ることができます。今回はアキコの左腕の異常発見から切断手術、個別飼育、群れ復帰と進めていく中で、飼育担当者や獣医師が何を思い、どう行動したかについてお話します。



山口進也 公財 横浜市緑の協会 野毛山動物園

平成 10 年に財団法人横浜市緑の協会(現:公益財団法人横浜市緑の協会)に採用され、横浜市立よこはま動物園に配属となる。よこはま動物園では動物病院、シンオザル、ダスクルトン、インドライオン、コウノトリなどの飼育業務に当たる。平成 24 年に野毛山動物園へ異動となりアビシニアコロボス、アカエリマキキツネザル、フサオマキザルの飼育業務を担当後、現在に至る。

フタコブラクダ「ツガル」の老後ケア

昭和 57 年に来園したメスのフタコブラクダ(愛称:ツガル)は野毛山動物園のシンボルとしてお客様に親しまれました。関節炎のため立てなくなり、それに伴う床ずれの悪化を乗り越えながら、ガイドや誕生日会などのイベントによって多くのお客様に愛着を持って頂くことができました。そのようなお客様に支えられ昨年、飼育下では世界最高齢と思われる推定 38 歳で惜しまれつつ他界しました。そんなツガルさんのお話をします。



吉澤未来 わんぱくこうちアニマルランド

大阪府立大学獣医学科を卒業してそのままわんぱくこうちアニマルランドの獣医師として働きはじめました。縁もゆかりもなかった高知が、今では私の人生で一番長く住んだ地となりました。飼育担当動物はグラントシマウマ、ツキノワグマとインコ類です。保護動物の担当者でもあるので今までに 200 以上の鳥や動物の子育てをしてきましたが、現在人間の子供を育てるのに奮闘中です。

高齢動物のケアとみとり

アニマルランドが開園してもうすぐ 22 年になります。高知市立動物園から連れてきた動物も、開園にあわせてやってきた動物も、高齢動物と呼べる年齢になってきました。お年寄りの動物、それも野生動物を扱うのは様々な難しさがあります。当園のお年寄り動物たちを紹介しながら、彼らへのケアや快適に暮らしてもらう工夫、そして彼らの最後をどう私たち飼育員や獣医師が迎えるかのお話をしようと思います。



川口かおる 京都市動物園

2008 年 4 月に京都市に採用され、北保健所衛生課に配属となり、主に食品、生活衛生業務として飲食店の許認可や食中毒の調査、建築物の管理状況の確認、理・美容、クリーニングの許認可などに携わる。2010 年 4 月に食肉検査所に異動し、牛や豚の内臓や枝肉や保肉畜の精密検査業務を行う。そして、2013 年 4 月に動物園に異動となり、分からないことばかりで戸惑いながら、修業の日々を送っている。

ツキノワグマサクラの老後ケアとみとり

京都市動物園でも高齢動物が増えてきています。そして、加齢に伴い身体的な問題を抱える動物もいます。2014 年 11 月 26 日に亡くなったツキノワグマのサクラも推定 39 歳と国内で確認されている中では最も長生きしたツキノワグマで、生態への理解や生きることの大切さを多くの人に伝えてくれました。今回は、そんなサクラの生涯をご紹介しますとともに、老後の生活環境を改善するために行った取組や疾病の治療・術後管理についてお話します。



松本松男 熊本市動植物園

平成 4 年熊本市役所入庁、熊本市動植物園に配属される。カピバラ・プレーリードッグなどを担当した後、アフリカゾウ、マサイキリンの担当となる。野生動物からのメッセージを市民に伝えることを信条とし、野生動物が野生動物らしく暮らしていけるために、今だに飼育とは何か奮闘中！ちなみに土佐のかつては大好物！

アフリカゾウ「マリー」と「エリ」の幸せを考えて

当園の「マリー」と「エリ」は昭和 59 年に来園したメスのアフリカゾウです。オスが同居していた時期もありますが、繁殖には至りませんでした。その 2 頭も今年で 35 歳、34 歳となります。遠くない将来、高齢化をむかえるであろう彼女らになにをやるべきか？国内のアフリカゾウの現状をみて飼育員は何を考えればいいのか？2 頭の幸せを考え、熊本市動植物園で取り組んでいることをお話します。



中尾汐莉 公財 日本モンキーセンター

和歌山県出身。小さい頃から、動物に携わる職業に興味を持ち、2009 年より日本モンキーセンターで飼育員として勤務している。ふれあい動物やアジアのサル類の飼育を経て、現在はワオキツネザルを主に担当している。計 4 年間、ワオキツネザルの飼育に携わり、現在、82 頭の群れの維持・管理に努めている。

目にケガを負ったワオキツネザルの治療奮闘記 ～もとの群れへ帰るまで～

2014 年の春に誕生したオスのレンネットは、生後 3 カ月の時に、ケガにより両目が白く濁る「外傷性角膜炎」になりました。群れの中での治療は難しかったため、ケガから 3 日後、母親や群れの仲間から分けて、治療に集中させることにしました。毎日、写真で記録を取りながら、約半年間、1 日数回の目薬をさし続けました。ケガが良くなりもとの群れへ帰るまでの過程を、レンネットと私たちスタッフの奮闘ぶりと共にご紹介します。



高知の動物園長

動物園のこれからの歩み

今日、生物多様性の重要性が世界でも日本でも叫ばれています。一方、ある有名学童文具から昆虫写真が削除されるというショッキングな話題がありました。これらがいかに懸け離れた思考であることが唾然とするばかりですが、これも現代社会の一面を反映した事実です。動物園にはこうしたギャップを埋める多くの可能性があります。そのシステムは貧弱で社会的な認知もまだまだですが、我々は一步一步着実に進まねばならない。

多々良成紀

高知県立のいち動物公園・園長
1961年、松山市生まれ。のいち動物公園の建設段階から携わり、動物診療や教育・企画業務、飼育課長等を経て、2012年から現職。好きなテーマは進化、頭骨、寄生虫、ニホンカワウソ、従軍ヒョウ「ハチ」。麻酔銃でほとんど外したことがないのが自慢であったが、動物福祉上はいかがなものか…。

高知の動物園長

おらんくの動物園

わんぱくこうちアニマルランドは、昭和25年に高知城内に開園した高知市立動物園が市制100周年を記念して、平成5年に移転オープンしました。アニマルランドでは、郷土産動物に重点をおき活動を展開しています。園内で行う域外保全活動だけでなく、実際の生息地における調査や域内保全活動、得られた知見を用いた環境教育、野生動物の疫学調査など地域性を活かした活動について考えてみませんか。



渡部 孝

わんぱくこうちアニマルランド・園長
昭和59年に高知市立動物園獣医師として採用され、飼育および獣医業務に従事。動物園移転2年後の平成7年に園長となる。全職員で構成する「わんぱく野生動物研究会」におけるヤマネ生息調査や、両生類・爬虫類の分野において高知県RDB改訂委員および高知市域を流れる鏡川の自然を市民と共に調べる「鏡川自然塾」の講師を務めるなど、フィールド調査に取り組んでいる。

自由討論

動物も歳をとるし、病気にもなる！

動物園で生活する動物たちもケガや病気になります。だれが、いつ、どこで、なぜ、そしてなにをすればよいのか、など、動物のケガや病気について考えることは、動物園の重要な仕事のひとつです。どんなに大けがをしても、大病を患っても生き続けようとする動物や、それを必死で支える飼育員の姿からは、生きることの意味や命の重さを感じる人もいますでしょう。またこの問題に動物園がどのように取り組むかは、人間を含むあらゆる動物が地球という生命の星でどのように共存するかという問題とも関係しています。高知の動物園の2園長、来場のみなさんとともに議論していきたいと思います。



伊谷原一 コーディネーター

京都大学野生動物研究センター・教授/
公財 日本モンキーセンター・園長
1984年以来、アフリカ中央部・コンゴ民主共和国の熱帯雨林で野生ボノボの研究に携わる。その一方で、東アフリカ・タンザニアでは乾燥疎開林のチンパンジーや絶滅の危機に瀕する野生動物を対象に、生態・行動・社会学的研究を行う。また、国内動物園・水族館との連携を推進し、飼育下動物の福祉や飼育・繁殖技術の向上を目指すための活動を展開している。



京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・ リーディング大学院

京都大学ならではの「オンリーワン」「フィールドワーク」のプログラム

京都大学の基本目標は、地球社会の調和ある発展です。我が国の海外展開に欠かせない俯瞰力と国際性に富むリーダーを養成します。

霊長類学は日本発のそして日本が世界を牽引する稀有な学問です。近年、霊長類学を基盤にし、大型の絶滅危惧種を対象にした「ワイルドライフサイエンス」という新興の学問分野が確立されつつあります。そこで必要とされているのは、フィールドワークを基盤として、人間のこころからくらし・ゲノムを包括的に理解しつつ、「地球社会の調和ある共存」を目指す実践活動です。

- (1) 生物保全の専門家として国連や国際機関・国際NGO等で働く若手人材
- (2) 博物館・動物園・水族館等におけるキュレーター（博士学芸員）、および、生息地で展開する博物館動物園としての「フィールドミュージアム」構想の具現者
- (3) 長い歳月をかけて一国を対象としたアウトリーチ活動を担う実践者

フィールドワークを礎に、学問と実践をつなぐグローバルリーダーの育成を目指します。

 <http://www.wildlife-science.org/index.html>



のいち動物公園

高知県立のいち動物公園は、山裾の緑豊かな環境の中、動物たちの生息環境を再現した展示が特徴の動物公園です。

家族で、群れで、のびのび生き生きと暮らす動物たちをご覧ください。

ジャングルミュージアム

国内最大級の熱帯雨林館では定期的に降るスコールやミストが幻想的な雰囲気をかもし出します。



どうぶつ科学館

情報・体験・観察・交流の4つのゾーンに分かれ、楽しみながら動物について学ぶことができます。

カワウソの比較展示

ニホンカワウソに最も近いとされるユーラシアカワウソをはじめ3種のカワウソを展示しており、体のつくりや生態を比較しながら観覧することができます。



アシカのタイチとエイト

2013 年、2014 年に生まれたオスのアシカです。プールで仲良く遊んでいる姿をみることができます。



シマウマのモミジ

体はしっかりしてきましたが、まだまだ幼さが残ります。サバンナ大展示場で、キリンと一緒に展示しています。



チンパンジーのミルキー

現在、人工哺育しているチンパンジーの赤ちゃんです。もうすぐ2歳になります。生まれもって体に障がいがあるけど、たくさんの人に支えられて元気に育っています。



キリンのイブキ

当園で初めて生まれたオスのキリンです。展示場を元気に走り回る姿をみることができます。

人も動物もいきいきと





アニマルランド



わんぱくこうちアニマルランドは都市型のこじんまりとした動物園ですが、飼育動物種は90種を越え、ライオンやトラなどの大型肉食獣にもガラス窓越しに大接近できます。四国産の希少動物の飼育繁殖にも取り組んでおり、ニホンカモシカやオオイタサンショウウオ、そして高知県の県鳥・ヤイロチョウに出会うことができます。県内唯一の遊園地もあり、他にもアスレチックゾーンや滝など、自然がいっぱい・楽しさいっぱい♪

ホームページ



〒780-8010 高知市棧橋通 6-9-1 TEL 088-832-0189
休園日 水曜日（祝日の場合は翌日振替） 無料駐車場 140 台

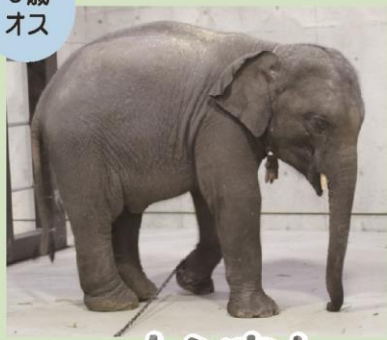
入園無料



ラオスから

4頭のゾウがやってきました

3歳
オス



トンカム

4歳
メス



カムパート

4歳
メス



プンニユン

7歳
メス



トンクン

昨年11月ラオス人民民主共和国から4頭のアジアゾウを御寄贈いただきました。以前より飼育していた美都（みと）とあわせて、本園の飼育個体は5頭となりました。3月の完成に先駆けて、一部オープンした「ゾウの森」では、群れ飼育を通して、将来の繁殖を目指すとともに、蓄積された馴致・トレーニングのノウハウを生かし、生態だけではなく、知性、働く動物としての人間との関わりなどを学べるような展示となっています。

近くて楽しい動物園



平成21年度より共汗でつくる新「京都市動物園構想」のもと整備を進めており、「おとぎの国」，「もうじゅうワールド」，「アフリカの草原」，「ひかり・みず・みどりの熱帯動物館」，「ゴリラのおうち～樹林のすみか～」を順次オープンしてきました。これらの施設はいずれも、近くで動物を観察できたり、動物の発する音やにおいや息づかいまで感じられると来園者に好評です。今年は、整備事業もいよいよ大詰め，「教育・利便施設」，「ゾウの森」，「京都の森」が夏に順次オープンの運びとなります。皆さま，開園後初めての全面リニューアルで『近くて楽しい動物園』に進化した京都市動物園を目で鼻で耳で・・・いっぱいにお楽しみください!!





ケイマンイワイグアナ
Cyclura cornuta



アオキコンゴウインコ
Ara glaucogularis



コジャコウネコ
Viverricula indica



ティウメダカ
Oryzias latipes

多様性の園

名古屋市東山動植物園ではメダカからゾウまで 500 種を超える多種多様な動物をご覧いただけます。なかでもメキシコウサギ、ラーテル、ソマリノロバ、コジャコウネコ、アオキコンゴウインコ、ケイマンイワイグアナ、ティウメダカは国内では東山動植物園でしか見られません。ティウメダカに至っては世界的にみても東山動植物園が唯一の展示施設です。なぜ、東山動植物園にはそのような貴重なメダカがいるのか？実は、このティウメダカは東山動植物園の飼育係員がインドネシア共和国のスラウェシ島へ行って、自ら採集してきた新種のメダカなのです。昨年の 12 月に新種として認められたばかりで、生息地であるティウ湖と発見者のいる東山動植物園以外では目にすることができません。

名古屋近隣に在住の方はもちろん、遠方にお住まいの方もユニークな動物を数多く飼育している東山動植物園へぜひ足をお運びください。



東山動植物園
Higashiyama
ZOO & BOTANICAL
GARDENS



メキシコウサギ
Romerolagus diazi



ラーテル
Mellivora capensis



ソマリノロバ
Equus africanus

4月22日 アフリカのサバンナ 全面開園！！

日本初のチーターと3種の草食動物の4種混合展示。

ライオン、クロサイ、リカオンなどもズーラシアに仲間入り！

開放感たっぷりの『アフリカのサバンナ』を体感しに来てください☆

 **ズーラシア**
ZOORASIA



バードショー

11:30～/14:30～



ラクダライド

詳細はHPもしくは
園内イベントガイドで！



金沢自然公園

金沢動物園

世界の**希少草食動物**を中心に飼育。

緑豊かな公園、動物や自然環境

について楽しく学べる動物園



横浜市立
野毛山動物園

横浜の中心に位置する"身近な動物園"

動物に**出会い**、**ふれあい**、**命を感じる**。

[指定管理者]

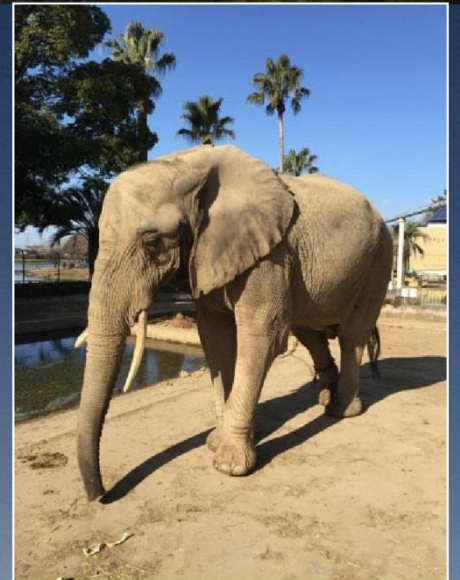


公益財団法人**横浜市緑の協会**
Yokohama Greenery Foundation

よこはまのどうぶつえん



楽しさますます！ 熊本市動植物園



市内中心部からほど近い、市民のオアシス・江津湖のほとりにあり、広々とした自然いっぱいの動植物園です。動物ゾーンでは、孫悟空のモデルといわれる金色の長い毛を持つ金絲猴（キンシコウ）、ゾウ、キリンなど約120種750頭の動物に出会えます。植物ゾーンでは四季折々の花と緑に親しむことができます。

世界の動物、ずっと身近に！
世界の動物、ずっと身近に！！



わくわくがいっぱい！！

アフリカゾウの親子は必見！！



TOBE ZOOLOGICAL PARK OF EHIME PREF.

愛媛県立とべ動物園

日本モンキーセンターは、サル類の研究、保全、福祉向上、環境教育などを目的とした公益財団法人です。

**附属世界サル類動物園では、
世界のサル約70種950頭
を飼育展示しています。**

愛知県犬山市犬山官林26

モンキーセンター

検索

大人(高校生以上) 600円

小中学生 400円

幼児(3才以上) 300円

日本モンキーセンター

ビジターセンター

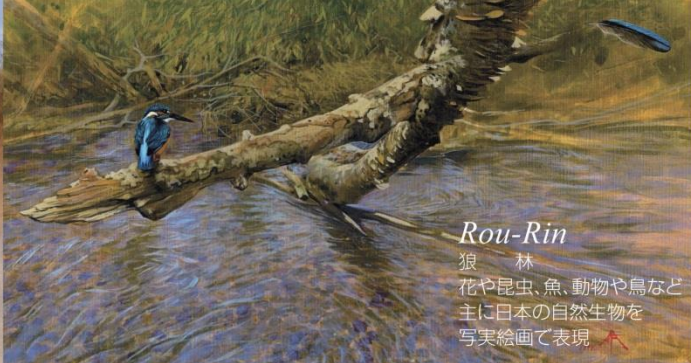
「目にケガを負ったワオキツネザルの治療奮闘話～もとの群れへ帰るまで～」

飼育技術員 中尾汐莉

2014年の春に誕生したオスのレンネットは、生後3ヵ月の時に、ケガにより両目が白く濁る「外傷性角膜炎」になりました。群れの中での治療は難しかったため、ケガから3日後、母親や群れの仲間から分けて、治療に集中させることにしました。毎日、写真で記録を取りながら、約半年間、1日数回の目薬をさし続けました。ケガが良くなりもとの群れへ帰るまでの過程を、レンネットと私たちスタッフの奮闘ぶりと共にご紹介します。

みんなと
ひなたぼっこが
できるようになりました♪





Rou-Rin

狼 林
花や昆虫、魚、動物や鳥など
主に日本の自然生物を
写実絵画で表現

動物園大学 5 in 高知 ジオアートワークス ワイルドライフアート企画展

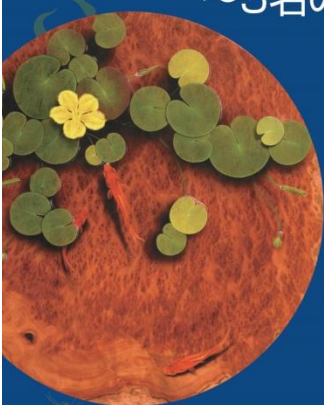
WILDLIFE ART 2015

～5名の作家の絵画と立体による「かけがいのない地球の生き物達」～

GEO ART WORKS

2015年3月14日(土)～4月12日(日)

高知県立のいち動物公園 どうぶつ科学館1階



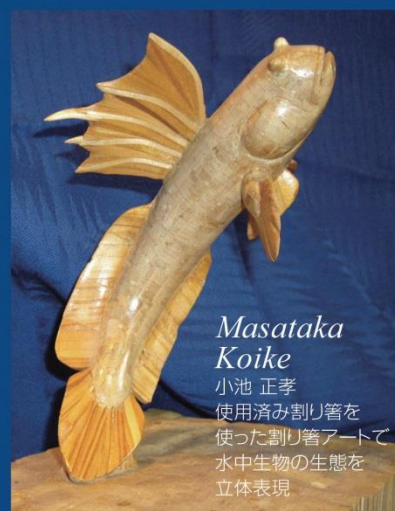
Satou
Tadao

佐藤 忠雄
木板上に
木目を生かし
日本の溪流魚
を絵画で表現



Takuji Saito

斉藤 卓治
ペーパークラフト
(紙細工)で
昆虫の生態を立体表現



Masataka
Koike

小池 正孝
使用済み割り箸を
使った割り箸アートで
水中生物の生態を
立体表現



Kei Kimura

きむら けい
アメリカ合衆国アラスカ州の
野生動物を絵画で表現



GEO
GEO ART WORKS

ジオアートワークス <http://hookjawgeoartworks.web.fc2.com>

2006年、フックジョーデザイン研究所の芸術部門として設立。自然環境保護啓発を目的とした、自然観察や現地取材を真摯に行い、高度な技術表現力を有する5名の作家で構成された、ワイルドライフアート作家集団です。日本各地の動植物園、水族館や科学館、環境学習施設などで展覧会、ワークショップ、作家講演を開催。1970年代にアメリカ・カナダで確立された、野生動物をモチーフにした芸術分野「ワイルドライフアート」を通じ、美しき大自然の素晴らしさ、かけがえのなさを訴えかけ、自然環境や野生動物への関心を持っていただくことを願い活動しています。

高知県立のいち動物公園 〒781-5233 高知県香南市野市町大谷738 TEL 0887-56-3500 開園時間 9:30～17:00(入園は16:00まで)
休園日: 毎週月曜日(祝日の場合はその翌日) 入園料(個人/団体: 有料20名以上) 大人: 460円/360円(2割引) 18歳未満・高校生以下: 無料

ポスター発表



01. 新人ゾウ担当者がゾウに乗れるようになるまで

飯野雄治・庄子泰之・先崎優・半澤紗由里・安藤正人（公財 横浜市緑の協会 金沢動物園）

体が大きく危険を伴うゾウの飼育管理を安全に行うため、金沢動物園ではゾウ飼育に携わる担当者の育成カリキュラムを作成し、人材育成を行っています。新人ゾウ担当者の育成経過を紹介します。

02. ワイルドライフアート作家集団「ジオアートワークス」

きむらけい¹²・木村香奈¹²（¹フックジョーデザイン研究所・²ジオアートワークス事務局）

自然観察や現地取材を真摯に行い高度な技術表現力を有するワイルドライフアート作家集団「ジオアートワークス」について、今回開催の展覧会ご案内と、日本各地での展覧会とワークショップ、講演などの活動内容を紹介します。

03. 新獣舎（「バードパーク」「チンパンジーの森」）の紹介

中西一則・大松徹（愛媛県立とべ動物園）
とべ動物園では、平成26年10月にチンパンジーを群れ飼育して繁殖を目指す「チンパンジーの森」と愛媛の里山をイメージし、身近な生き物への関心を高めるための「バードパーク」をオープンした。その概要を紹介する。

04. 宿主を特徴づける腸内乳酸菌—ゴリラにはゴリラの乳酸菌！—

土田さやか¹・Nguema PPM²・佐藤康弘³・渋谷康³・伊東英樹³・田中正之⁴・和田晴太郎⁴・長尾充徳⁴・村山美徳⁵・牛田一成（¹京都府立大学・²Research Institute of Tropical Ecology・³東山動物園・⁴京都市動物園・⁵京都大学野生動物研究センター）
「ヒトにはヒトの乳酸菌」というように、動物種を特徴づける腸内細菌が存在している。本発表では、ゴリラと共生する新規の腸内乳酸菌—*Lactobacillus gorillae*—について報告する。

05. ウガンダにおける小学生の霊長類に関する認知度調査

有賀菜津美¹²（¹霊長類研究所・²PWS リーディング大学院）
ウガンダのカリンズ森林保護区周辺に住む小学生100人を対象に、カリンズに生息する霊長類6種についての認知度を調査した。その結果、正答率が最も高かったのは、バブーン、次いで高かったのはチンパンジーであった。

06. レッサーパンダの授乳初期における成功例と失敗例の比較

岡部光太・中野和彦・佐藤元治・川口かおる・田中正之（京都市動物園）
昨年、京都市動物園では28年ぶりにレッサーパンダが繁殖した。出産は2例あったが、1例は出産後3日で死亡した。授乳初期におけるそれぞれの行動を比較し、人工哺育に切り替える判断材料の1つとして報告する。

07. オランウータン特有の身体の変化について

木村幸一¹・高倉健一郎¹・木下こづえ²・黒島英俊³・小倉匡俊⁴・尾崎康彦⁵・久世濃子⁶（¹名古屋市東山動植物園・²京都大学霊長類研究所・³京都大学野生動物研究センター・⁴北里大学獣医学部・⁵名古屋市立大学大学院医学研究科産科婦人科学・⁶国立科学博物館人類研究部）
オランウータン若者雄は、自分より強い大人雄がいなくなると急激に外見が変化する。2012年に大人雄が死亡したことから、若者雄の顔幅、尿中ホルモン値を測定したところ、顔幅に相関して上昇するホルモンが認められた。

08. 隠れたゾウガメを探せ！プロジェクトⅡ

藤谷武史¹・谷佳明¹・玉井勘次²・安川雄一郎³（¹名古屋市東山動植物園・²元平川動物公園・³高田爬虫類研究所）
日本の動物園や水族館で飼育されているアルダブラゾウガメの中に近縁種であるセーシェルヒラセゾウガメとセーシェルセルゾウガメが隠れているか調査を試み、17園館52頭のゾウガメについて形態を中心に計測を行った。

09. タブレット端末を用いた来園者が参加できる動物行動記録アプリケーション開発

田中正之¹・吉田信明²・和田晴太郎²（¹京都市動物園・²京都高度技術研究所）
京都市動物園に設置されている無線メッシュネットワークを利用した行動観察アプリケーションを開発している。来園者は、タブレット端末からブラウザを解してウェブサーバーに接続し、動物の位置と行動が記録できる。

10. 同年代個体のいない飼育下赤ん坊チンパンジーの社会行動とその相手

石塚真太郎¹・松永雅之²・島田かなえ²・田中正之²・山梨裕美³（¹京都大学農学部・²京都市動物園・³京都大学野生動物研究センター）
幼年個体が一人である集団飼育の赤ん坊チンパンジー（2013年2月生）の活動時間配分および社会行動の相手を調べた。社会行動の割合は先行研究の野生のものよりも高く、その90%は母親以外の大人に対して行っていた。

11. 新エリア「アフリカのサバンナ」の紹介

齋藤彦弥（公財 横浜市緑の協会 よこはま動物園）
平成27年4月22日「アフリカのサバンナ」が全面公開します。見どころは動物園で始めてとなるチーター、シマウマ、キリン、エランドとの「4種混合展示」その概要を紹介します。

12. チンパンジーを通じた横浜の動物園とウガンダの動物園との技術協力

平賀真紀¹・野口忠孝¹・小倉典子¹・井川阿久里¹・齋藤憲弥¹・森村成樹²（¹公財 横浜市緑の協会 よこはま動物園・²京都大学野生動物研究センター）
公財 横浜市緑の協会は2008年より横浜市及び国際協力機構（JICA）と共に、ウガンダ共和国にあるウガンダ野生生物教育センター（UEWC）に野生動物飼育及び環境教育活動の技術支援を行っています。よこはま動物園で2011年より行ってきたチンパンジーの行動調査をUEWCで実施してきましたので発表します。

13. 動物園における多様な動物データの収集・蓄積とその活用に向けて
吉田信明¹・田中正之²・和田晴太郎²（¹京都高度技術研究所・²京都市動物園）
センサーや携帯端末を用いた動物園での動物行動・環境データの収集と、教育等への活用に関する我々の取組を概観し、この成果を踏まえ、動物園での多様な動物データの収集・蓄積と活用の方策を展望する。

14. 郷土生物を活用した環境教育および保全協力への一例

山崎博継・渡部孝・吉川貴臣（わんぱくこうちアニマルランド）
高知市民の参加型講座「鏡川自然塾」において、2012年から3年間、鏡川流域のいきものしらべを行った。当園職員が専門講師として陸産貝類、両生類、爬虫類分野を担当した。その講座概要および結果を報告する。

15. ☆四国初☆高知県内におけるオオサンショウウオ自然繁殖

吉川貴臣・渡部孝（わんぱくこうちアニマルランド）
2015年2月4日、高知県北西部の仁淀川支流にて、国の特別天然記念物オオサンショウウオの全長5センチほどの小さな幼生群・赤ちゃんたちをたくさん発見した。四国では初めてとなる自然繁殖の確認例を紹介する。

16. マンガやイラストを用いた動物解説の効果とその一例

岡本宏昭（わんぱくこうちアニマルランド）
動物解説についてマンガやイラストを用いることによる色々な効果、また当園が今まで行ってきた方法とは違う角度からの、動物園アピールに結びついたことを発表する。

17. わんぱくこうちアニマルランドの環境エンリッチメント

久川智恵美・岡本宏昭・吉澤未来・山崎由希・吉川貴臣・山本将充（わんぱくこうちアニマルランド）
チンパンジー、ツキノワグマ、キツネザル、インコ、モルモット等におこなっている、飼育動物の生活を豊かにする工夫「環境エンリッチメント」を紹介する。

18. 四国のコウモリご紹介

谷地森秀二¹・谷岡仁²・美濃厚志³（¹四国自然史科学研究センター・²香美市・³東洋電化テクノリサーチ）
夜に空をとびまわり、虫を食べて暮らすコウモリたち。四国ではこれまでに15種類が見つかっています。最近10年間でわかってきた四国のコウモリの種類と暮らしについて、写真とイラストでご紹介します。

19. ヤクニホンザルの60年：飼育下でおきた体型の変化

新宅勇太（公財 日本モンキーセンター・京都大学野生動物研究センター）
日本モンキーセンターでは1956年からヤクニホンザルの群れを飼育しています。およそ60年分のデータを調べると、動物園で世代を重ねるにつれて、彼らの体型が少しずつ変化してきたことが分かってきました。

20. アカカンガルーの人工哺育と群れ復帰

平瀬早人・松本松男・高田桂史・下石裕二・北川勇夫・松本充史・上野明日香・長井和樹・上野雅都恵・瀧本勉・松崎正吉（熊本市動植物園）
成長途中のアカカンガルーの子どもが母親の育児嚢から出ており、育児嚢へ戻すこともできなかったため、人工哺育を行った。人工哺育の方法や、開始から群れに返すまでの経過、群れ合流後の状態等について報告する。

21. データロガーを用いたフンボルトペンギンの抱卵温度と角度の測定

佐々木智子¹・伊藤二三夫¹・伊藤英之¹・吉田信明²（¹京都市動物園・²京都高度技術研究所）
フンボルトペンギンの1ペアについて、抱卵中に2羽同時に巣を離れることがあり温度低下に伴う負荷率の低下が懸念されたため、卵の状態を知るために温度・加速度データロガーを擬卵に挿入し温度及び角度を測定した。

22. 左前腕を切断した飼育下チンパンジーの行動の変化と群内メンバーへの影響

櫻庭陽子¹²・近藤裕治³・山本光陽³・足立幾磨¹・林美里¹（¹京都大学霊長類研究所・²日本学術振興会・³名古屋市東山動植物園）
東山動物園には2013年2月に病気で左前腕を切断し、同年5月に群復帰をしたチンパンジー、アキコが暮らしている。本研究はアキコの障害が、アキコと周りの個体の行動にどのような影響を与えたかを分析した。

23. インドゾウの夜間行動調査

藤澤加悦¹・佐藤英雄¹・古田洋¹・栗原幹尚¹・太田真琴¹・田中正之²（¹公財 横浜市緑の協会 よこはま動物園・²京都市動物園）
飼育下のインドゾウの夜間行動観察を行うことで、飼育環境を変えたことによる行動変化や、個体同士の接触時間の変化などを明らかにした。また、時間経過による行動変化も調査し、実際に飼育環境の改善につながっているのかを検討した。

24. フンボルトペンギンの繁殖期におけるコミュニケーションと個体間関係について

金子祐希¹・佐々木智子²・伊藤二三夫²・田中正之²（¹京都大学理学部・²京都市動物園）
京都市動物園で飼育されている11羽のフンボルトペンギンの群れを2014年の1月から7月まで週に1回約90分間、合計約45時間観察した。繁殖期における行動を観察し、ペア毎の違いや浮気行動について考察した。

25. 自動分析機器を用いた飼育チンパンジーの夜間睡眠

森 裕介・森村成樹（京都大学熊本サクチュアリ）
睡眠は、チンパンジーの健康を評価する重要な指標である。しかし夜間観察やビデオによるデータ解析には膨大な労力を要する。今回、ヒトの睡眠観察用に市販されている自動分析機器を用いてチンパンジーの睡眠を評価した。

26. 日本モンキーセンターにおけるワオキツネザルの繁殖計画～繁殖制限と搬出～

田中らぐさ・中尾汐莉・廣川百恵・杉浦直樹（公財 日本モンキーセンター）
当園のワオキツネザルは昨年101頭となった。施設・福祉・衛生面から限界を迎えるため、繁殖制限と他園への搬出を行った。これにより、現在は82

頭となった。今後、産仔数を抑制しながら適正頭数への調整を目指す。

27. 野生を見に行こう！～アマゾン野生動物研修～

綿貫宏史朗¹²・赤見理恵²・根本慧² (¹京都大学霊長類研究所・²公財 日本モンキーセンター)

南米産野生動物の野外観察のためブラジルのリオデジャネイロとアマゾン川流域の都市マナウスに滞在し、近郊の自然公園などを訪問した。新世界サル9種など多くの野生動物を観察できたためその報告をおこなう。

28. ボルネオゾウにも右利き左利きがあるのか？

萩原慎太郎¹・井亀徹¹・菅里美¹・藤井修¹・原田昌治¹・井上和彦¹・森村成樹²・田中正之³・岡本智伸⁴・伊藤秀一⁴ (¹福山市立動物園・²京都大 WRC・³京都市動物園・⁴東海大農)

ヒトでは利き手や利き目などがあるが、他の動物でも同様の事象がみられる。当園のゾウにおいて行動観察を行ない、トレーニング時の起立や伏臥時の後肢の動き、さらに異常行動(回ゆう癖)に左右の偏りが認められた。

29. キリンの2歳齢の子が母と離れていたときの行動

川北安奈¹・山田一憲¹・中道正之¹ (大阪大学人間科学部)
京都市動物園の母キリンの出産に伴い、2歳齢のメスの子(以下、子)が母と分けて数週間飼育された。その時の子の行動を調べたところ、移動・首反らし・反芻・横になる行動に変化が見られ、心理的不安が生じていたと考えられた。

30. エンリッチメントってなんだろう

穴見浩志 (熊本市動植物園)

昨年3月にホッキョクグマ(愛称:マルル)が来園し、1年を通して日常及びイベントにおけるエンリッチメントを行ってきた。今回は日常のエンリッチメントとして、種類、遊具、採食フィーダー等を紹介する。

31. のいち動物公園のレッサーパンダ飼育史

笠木靖¹・木村夏子¹・山田信宏¹ (高知県立のいち動物公園)
開園から現在に至る23年間の当園におけるレッサーパンダの飼育経過、及び繁殖状況について報告する。また、日本の動物園全体で行われている同種の繁殖に向けての取り組みについても併せて紹介する。

32. ジェンツーペンギンの繁殖について

北村香¹・大谷忠義¹ (高知県立のいち動物公園)
当園では2007年よりジェンツーペンギンの飼育を開始し、4年後に初めて繁殖に至った。以降、毎年繁殖行動が確認され、合計4羽のヒナが育成している。今回は2013年に2羽同時に育成した繁殖例について報告する。

33. エジプトルーセットオオコウモリの人工哺育について

佐々木愛理¹・福田桂子¹・齋藤隼¹・金崎依津子¹ (高知県立のいち動物公園)
当園ではエジプトルーセットオオコウモリを現在319頭飼育しており繁殖も盛んであるが、母体から幼獣が落下し死亡するケースも見受けられる。今回はそうした幼獣5頭の人工哺育を行い2頭を群れに復帰させられたので、その経過を報告する。

34. カリフォルニアアシカ人工哺育個体(幼獣)の成長記録と離乳経過について
湯浅健¹・笠木靖¹・佐々木愛理¹・山田信宏¹ (高知県立のいち動物公園)
衰弱のため生後5日齢から人工哺育に切り替えて育成したオス幼獣の離乳経過について報告する。当個体は離乳のため、297日齢で完全に人工乳を止めてから、魚に餌付くまでに49日間という長い期間を要した。

35. 動物たちが健康に過ごせるための工夫

仲田忠信¹・大谷忠義¹・小松美和¹・木村夏子¹・原浩二¹・濱田いずみ¹ (高知県立のいち動物公園)
当園のアフリカ・オーストラリアゾーンでは、動物たちが健康に過ごせるように様々な取り組みを行っている。今回はアメキリンとブチハイエナのトレーニング、ハシビロコウの体重測定など、6種の取り組みについて紹介する。

36. フェイスブックの利用状況について

牛腸典代¹・久川信子¹・澤田直子¹・長野加奈¹・酒井稚加¹ (高知県立のいち動物公園)
当園では、2014年6月から広報活動の一つとして、代表的なSNSであるフェイスブックでの情報発信を開始した。内容は動物の紹介やイベント情報など様々で、2015年2月現在、投稿した情報は339件、ファン数は989名となっている。

37. 育ててみようエサの虫

大野真奈¹・隅田小桐¹・小西克弥¹ (高知県立のいち動物公園)
当園では昆虫をエサとしている動物も数多く飼育している。その動物の飼料として自家繁殖させている昆虫類3種(フタホシコオロギ、ミルワーム、ジャンボミルワーム)の飼育や繁殖方法について紹介する。

38. バードリハビリケージの運用経過

齋藤隼¹・福田桂子¹・金崎依津子¹ (高知県立のいち動物公園)
当園では2010年、傷病野生鳥類を保護、治療後に野生復帰をさせるための馴化施設としてバードリハビリケージを新設した。これまでクマタカやノスリなどの猛禽類を中心にここで飛翔力等を養い、野生復帰を果たした。

39. のいち動物公園ボランティアズの活動紹介

山崎英男¹・森田さわ子¹・西内章¹・西村澄子¹・松木正子¹・小松和幸¹ (のいち動物公園ボランティアズ)
のいち動物公園ボランティアズ(NZV)は平成11年より活動を開始し、

現在42名が所属している。ガイドやオリジナル紙芝居の読み聞かせ、チンパンジーの観察など、NZVの幅広い活動の内容を紹介する。

40. もう3分、見て行かれませんか！？

吉井喜美 (のいち動物公園ボランティアズ)
チンパンジーたちを観察していて感じたこと。通り過ぎて行くお客さんたちに、もう少し長く見て行ってもらえないものか。そこで、少しでも興味を持ってもらうための方法を紹介する。

41. 地獄谷と小豆島のニホンザルの野外観察実習

早川卓志 (京都大学霊長類研究所)
京都大学PWSリーディング大学院の自主フィールドワーク実習企画として、ニホンザルの生態と行動を観察する野外実習を実施している。去年は地獄谷、今年は小豆島を訪ねた。その様子の写真や参加者の声を紹介する。

42. Evaluating stress in male Japanese Macaques in two types of housing conditions

Pastrana JA (京都大学霊長類研究所)
I will compare stress levels in male Japanese Macaques living in two types of enclosures, by recording their behaviors and fecal cortisol levels during 12 months. Their activity budgets and average cortisol rates will be compared throughout all 4 seasons.

43. Non-invasive analysis of adrenal hormones in female Japanese macaques (*Macaca fuscata*)

Takeshita RSC¹・Huffman MA¹・Bercovitch FB¹・Mouri K¹・Shimizu K² (¹京都大学霊長類研究所・²岡山理科大学)
The ability to determine hormonal profiles of nonhuman primates can help to monitor reproductive status and physiological adaptation to environment. We used a noninvasive method to evaluate the adrenal activity in Japanese macaques.

44. Mother-infant behavior in wild orangutans, Danum Valley, Borneo: implications for conservation and report of a study case

Mendonça R・Kanamori T・Hayashi M・Matsuzawa T (京都大学霊長類研究所)
Orangutans are listed as endangered/critically endangered species. I briefly report a study case showing how behavioural research is important for conservation and, therefore, minimize the decreasing number of individuals.

45. 自動給餌機導入による飼育下インドゾウの行動時間量変化

金澤朋子¹・西村直也¹・半澤紗由里²・安藤正人²・村田浩一¹ (¹日本大学野生動物学・²公財 横浜市緑の協会 金沢動物園)
作業時間外での給餌が飼育下インドゾウの常同行動軽減につながると考え、自動給餌機の導入を試行した。夜間の18時から20時の給餌では効果が認められず、早朝の6時から7時の給餌では常同行動の行動時間量の減少が確認された。

46. サルってどんなイメージ？ー動物園が伝えていくべき野生動物の姿

赤見理恵 (公財 日本モンキーセンター)
みなさんは「サル」にどんなイメージを持っていますか？かわいい？こわい？ヒトに似ている？ポスターでは日本モンキーセンターで学習した学生の変化を例に、動物園が伝えていくべきことを考えます。

47. 大型類人猿3種へのハズバンダリートレーニングの導入

加藤洋子¹・中村智行¹・樽川修¹ (千葉市動物公園)
千葉市動物公園で飼育している大型類人猿3種(チンパンジー、ゴリラ、オランウータン)に健康管理を目的としたハズバンダリートレーニングを導入した。そのトレーニング内容と今後の課題について報告する。

48. マレーバクの無保定下における採血の取り組み

石田郁貴¹・宮崎沙都¹・中村誠¹・楠比呂志² (¹千葉市動物公園・²神戸大学)
マレーバクの繁殖生理における知見を集めるため、行動および血中ホルモン動態の観察をすることとした。そのために無保定下で定期的な採血ができるよう行った馴致の過程及び血中ホルモン動態の一部を報告する。

49. グレビーシマウマ「シズカ」26歳10か月の飼育経過

佐藤安優美 (千葉市動物公園)
千葉市動物公園で飼育していたグレビーシマウマ「シズカ」が平成25年7月3日に死亡した。死亡時の年齢は26歳10か月で日本最高齢であった。シズカが来園してから死亡するまでの飼育経過を報告する。

50. チンパンジーの体毛からストレスを測定する:熊本サンクチュアリの試み

寺本研¹・山梨裕美¹・森裕介¹・野上悦子¹・森村成樹¹・平田聡¹ (京都大学野生動物研究センター)
体毛に蓄積されるコルチゾル(ホルモン)が慢性的ストレスの指標となることから、熊本サンクチュアリで飼育しているチンパンジーを対象にコルチゾルの長期モニタリングと濃度測定体制の整備を行った。

51. アルダブラゾウガメにおける赤色の認識に関する研究

奥村太基¹・藤谷武史²・原田梨可²・上野吉一²・岩澤淳¹ (岐阜大学応用生物科学部・²名古屋市東山動物園)
爬虫類における色の認識に関する研究は少ない。そこで、名古屋市東山動物園で飼育されているアルダブラゾウガメを用いて、明度が異なる赤色をどのように認識しているか心理物理学的手法を用いて調べた。



動物園大学がめざすもの

1. 動物のよりよい暮らしのサポート（飼育技術の向上）
2. 動物や動物をとりまく環境の理解（飼育下から野生まで）
3. 動物の健康・繁殖・福祉の充実



京都大学および連携する動物園が協力して、情報交換・共同開発・教育普及をおこなうプロジェクトです。

ず〜ぜよ。

動物園大学⑤ in 高知

主催 京都大学野生動物研究センター

共催 高知県立のいち動物公園
京都市動物園
名古屋市東山動物園
公財 日本モンキーセンター
公財 横浜市緑の協会（よこはま動物園、野毛山動物園、金沢動物園）
熊本市動植物園
わんぱくこうちアニマルランド
愛媛県立とべ動物園

後援 公財 日本動物園水族館協会 高知県教育委員会 高知市教育委員会
香南市教育委員会 共同利用・共同研究拠点事業
「絶滅の危機に瀕する野生動物（大型哺乳類）の保全に関する研究拠点」
京都大学 霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院
高知新聞社 NHK 高知放送局 RKC 高知放送 KUTV テレビ高知
KSS さんさんテレビ 香南ケーブルテレビ



2015 年「ず〜ぜよ。動物園大学⑤ in 高知」事務局

幸島司郎(京都大学野生動物研究センター 教授・センター長)
伊谷原一(京都大学野生動物研究センター 教授)
友永雅己(京都大学霊長類研究所 准教授)
森村成樹(京都大学野生動物研究センター 特定准教授)
高橋佐和子(京都大学野生動物研究センター 事務掛)